

あとがき

『ねぶた・ねぶたと津軽の子ども・学校』（科研報告書）は、科学研究費の研究期間を含め7年間の研究成果である。そして、この研究は、ねぶた・ねぶたと学校教育の関わりを各種調査で明らかにし、学校が、また、ねぶた・ねぶた愛好教師がねぶた・ねぶたを教育内容として、教材として取り組むときの基礎データを提供したと自負できる。ねぶた・ねぶた関係者、教育関係者が必要なときに読まれ参考にして頂けたならば幸いである。

53歳で大学の教員になった私にとって、本研究は科研費研究代表としての初仕事であった。研究最終年の今年度、まとめをどのようにするか悩んだ。科学研究費の報告書は印刷しなくてもよい規定に改正されているので、特に刊行しなくてもよいわけであるが、税金で仕事をしたならば、活用しやすい形にしておくことが研究者のモラルと考えた。特にこの研究課題は関係者、青森県民にとって関心もあるため、わかりやすい形にしてまとめようと決意した。なにせ、調査ごとに記者会見をして県民の皆さんに報告をしたが、毎回マスコミ各社が取り上げ大きく報道してくれた。陸奥新報社が1面トップで報道したことは忘れられない。

さて、「はじめに」で書いたが、本研究に取り組む切っ掛けは、ねぶた弟子立田健太さんが私のゼミ生になり、卒論でねぶたと学校教育との関わりについて調べたいということからであった。最後の報告書作成では、弘前で地域ねぶたに子どもの時から関わっていた、「ねぶた愛好」学生である、鎌田さんの力によるところが大きかった。彼女は、第Ⅱ部のねぶた・ねぶた実施校訪問調査では、指導的役割を果たし、各担当訪問員を支援して報告書をまとめてくれた。また、第Ⅲ部の4市学校調査のデータ処理は彼女一人で行い、分析・考察では貴重な意見を述べてくれた。

第Ⅰ部の北小学校での出前授業における、だるまねぶたの創出者は、ねぶた師竹浪氏の弟子で、大谷ゼミに所属している山内勇輝君のものである。彼の指導の下、メンバー全員で分担して材料を用意し、授業に備えた。

このように、このプロジェクトは、ねぶた・ねぶたが大好きな学生さんによって担われ展開された。私は、彼／彼女らが活動しやすい物的・金銭的・精神的環境を提供することに配慮した。

そのような私を、共同研究者である美術科教育法担当の蝦名先生（現弘前大学教育学部附属小学校校長）と教員養成学センターの佐藤紘昭先生（現弘前市教育委員会教育長）が暖かく助言、支援して下さった。

尚、本冊子を編集するにあたり、やまと印刷の秋元さんには、何回も足を運んで頂きご迷惑をおかけしました。皆様のご協力、ご尽力に感謝申し上げます。

尚、この研究はまだ私の中では続きます。ねぶた愛好学生がゼミ生で存在する限り。しかし、私はあと2年を残して退職ですので、それまでです。

2012年3月12日

大谷良光

ねぶた・ねぶたと津軽の子ども・学校

文部科学省・科学研究費補助金＝基盤研究(C)

－課題番号20530840、平成20年～23年)

研究題目：津軽ねぶた・ねぶたの教育化～調査研究とカリキュラム開発
最終報告書（第4年次）

発行年月日 2012年3月21日

発行者 大谷良光

〒036-8506 青森県弘前市文京町1番

弘前大学教育学部 技術教育講座

電話 0172-39-3417

e-mail : ootani@cc.hirosaki-u.ac.jp

印刷・製本所 やまと印刷株式会社（弘前市）



弘前市立北小学校の子ども達が制作した「だるまねぶた」



研究プロジェクトが教材開発した「だるまねぶた」